

平成27年度倉吉市・東伯郡小中学校中堅教師研修会概要

倉吉市教育委員会事務局学校教育課

- 1 趣 旨 大量退職・大量採用の時代を迎える中で、中部地区の小中学校では、中堅教員の割合が少なく、講師を含めた若手教職員の割合が増加している。今後の中部地区学校教育を担っていく教務主任、研究主任等の中堅教員の自覚と力量を養成していくことは喫緊の課題である。

本研修会は、こうした考え方から、将来の学校教育を担う中堅教員の能力と意欲を開発することを目的とする。

- 2 日 時 平成27年5月16日（土）午前9時30分～11時30分

- 3 会 場 交流プラザ 第1研修室

- 4 参加者 倉吉市・東伯郡小中学校に勤務する教職員で希望する者43名

- 5 内 容

- (1) 開会あいさつ 倉吉市教育委員会 福井伸一郎 教育長

- (2) 説明 「中部教育の現状と課題」

講師：中部教育局学校教育担当 藤原彰二 課長補佐

- ・中部教育の課題を、「年齢構成」「学力」「不登校」の3つの観点で大変分かりやすく説明していただいた。

- (3) 講演 「これからの教育改革と新しい教師像」

講師：文部科学省初等中等教育局

安井順一郎 企画官

- ・教師と生徒が対面することを必要としない学習形態が広がる中、教師の存在意義を問われた。教授方法についての専門性を持つことが、プロとしての存在価値であるとの御示唆をいただいた。
- ・社会の変化に伴い、求められる人材像は変化する。今後、育成すべき能力の変化に対応した授業方法の転換が不可欠であり、アクティブラーニングを取り入れ①主体的思考②学校知と日常経験の結合③双方向の協働的学習を進めていくことの重要性を教えていただいた。
- ・「チーム学校」を推進していくことで、多様な専門性を持つスタッフの充実が図られ、学校の教育力・組織力が向上し、教員は子どもの指導に一層専念できる環境になる。
- ・国際的に見た日本の教育実践の評価を知ることができ、それが自信と勇気を持つことになったと同時に、教職員の自己肯定感・有用感をどう高めていくのかという課題も見えてきた。

- (4) 閉会あいさつ 東伯郡地教委連絡協議会 土海孝治 会長

